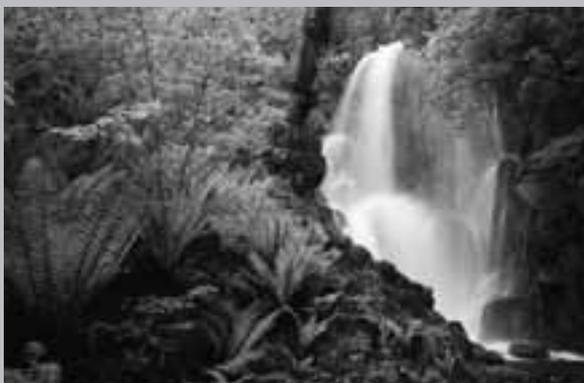


ジオパーク通信では、これから各回にわけて、それぞれの町のジオサイト（ジオパークのみどころ）についてご紹介します。

私たちが暮らす洞爺湖有珠山地域には、有珠山や昭和新山のほか、大地（ジオ）の成り立ちを物語る風景がたくさんあります。見なれた風景も、物語を知るとぐーんと面白くなるよ！ジオの物語を探して、探検に出発！



## 壮瞥滝（そうべつだき）

洞爺湖には、ソウベツ川をはじめ、いくつかの川から水が流れ込んでいますが、自然の流出口はこの壮瞥滝のみ。水は約 18mの高さから流れ落ち、やがて長流川と合流します。滝のまわりの岩石は、約 90 万年前と約 160 万年前の高温の火砕流堆積物が固くしまってできた溶結凝灰岩。散策路が整備されているので、歩いていくことができます。

## 弁景川・弁景温泉（べんけいがわ・べんけいおんせん）

かつて北海道最大の硫黄鉱山が壮瞥町黄溪にあり、多くの方が働いていました。大正時代末期から閉山する 1973 年まで酸性の鉱山廃水が弁景川に流れていたなごりで、現在も川床が赤くなっています。また、その水が発電用の取水トンネルを通じて洞爺湖にも流入し、洞爺湖に生息する魚類の多くがいなくなりました。そのため 1972 年に酸性水の中和処理がはじまり、現在は湖水の生態系が回復しつつあります。



## ドンコロ山

このあたりはドロノキが多く、マッチの軸木にするために切り出して、斜面を転がし運んだことから「ドンコロ山」と名付けられたようです。約 2 万年まえに有珠山ができたところに形成された側火山（そくかさん）で、壮瞥町の町道昭和新山第 2 線は、ドンコロ山の火口の中を通過しています。新山沼展望公園では、ドンコロ山と有珠山の噴出物の地層が保存されています。